

令和5年度学校評価 島根県立津和野高等学校						
重点目標 (生徒たちを どう育てるか)	担当部	目標達成のための具体的方策	評価のための指標	自己評価と次年度の課題(令和5年度)		学校関係者評価 (学校運営協議会委員意見) (令和5年度)
				評価	A:目標達成した B:ほぼ達成した C:達成までもう一步であった D:達成に至らず検討を要する	
各教科の知識・技能(の 育成)	教務	○家庭学習を充実させる。そのために、何にどれくらい取り組むか目標を設定し、生徒・教員間で共有し、その実現を目指す。 ○読書量の増加を目指す。	学習時間調査での目標達成率(同時に読書時間も調査する)	C	クラスにより若干の差があるが、4月の学習時間調査において1年生は1日あたり平均55分、2年生は48分、1月においては1年生が59分、2年生が62分であった。いずれも増加しているが微増であった。1学期および2学期の期末試験前にも調査を行った。2学期期末試験前の場合、1年生は1日あたり平均177分、2年生は231分、3年生は214分であった。定期試験がないとなかなか学習時間が増えない傾向がある。生徒の学ぶ力を日常から発揮させるためには、定期試験などの評価の在り方について再構築し、日常的に学習するようなシステムを検討する必要がある。ただ、学習時間の目標については生徒や教員と共有はできた。 ○読書量についても学習時間調査と同時に調査をしたが、伸びはなかった。読書の機会提供をクラス単位で増やすなどの対策が必要だと思う。ただ、「読書をする」と呼びかけても、具体的に何かを示さなければ行動に移らない生徒が多いと思う。そのようなことを考慮した対策を検討したい。	○やりたいことが見つからない子どもへの対応を求めたい。 ○HAN-KOHと連携して英語教育、観光教育に力を入れるのはどうか。 ○生徒のやる気を引き出し伴走できる教員、新しいものに柔軟に対応できる教員が必要である
	進路	○適切な補習計画および模試計画をおこない、その実施後におけるクラス担任および教科担当から生徒へのフィードバックを通じて、生徒個々の進路実現に資する。	補習の実施実日数等	B	3年平日補習は延べ20回の実施。夏期補習においては1、2年生が4日間、3年生は5日間の実施であった。3年補習においては、模試の振り返り講座を行うなど、生徒の実情と実態に合わせた運用ができた。平日補習に関しては、平日の時程とJRダイヤの関係から6限授業日のみの実施となった。次年度新課程対応の模擬試験を平日に実施する必要が生じる可能性もあり、平日補習の設定が十分に行えるかなど検討の必要がある。	
	第1学年	○授業第一の姿勢で学習に取り組ませる一方で、学習時間調査や教科担当による面談を行うことで家庭学習の充実を図り、基本的学習習慣を定着させる。	学習時間調査で週合計10時間以上	C	学習時間調査の結果を見ると、試験期間中の学習時間の平均は週20時間であったが、試験期間外の学習時間の平均は週7時間であり、目標とする週10時間を大きく下回った。試験期間中は教室で居残り学習をしたり、センセイオフィスに来て質問をしたりと、それなりの取り組みをしているが、日常的にはそうではないのが課題である。年度末アンケートの「授業以外でも積極的に学習に取り組んでいる」という質問に対して、肯定的解答が57%、否定的解答が42%であった。授業に向かう姿勢は一部の生徒を除けば概ね良好であるため、授業と家庭学習の両輪で学力を身に着けるような仕掛けが必要である。	
	第2学年	○一人一人の生徒に向き合う指導 ・個人面談や進路ガイダンス、進路検討会等を充実させ、各自が進路目標を設定できるよう支援する。 ・個人面談や学年会で学習状況の把握、学力分析を行い、科目担当者と連携して学力の充実を図る。	・家庭学習時間平均2時間以上 ・生徒アンケートA21,A17,B1で肯定的な回答が80%以上 ・個人面談学期1回以上実施 ・関係会議月1回以上開催	B	・学年部、関係分掌、授業担当者等の支援のもと、担任は学期ごとの面談や日常の声掛けなど個に応じた対応を丁寧に行うよう心がけた。学年会は2月末までに35回開催し、生徒情報や指導の方向性等を共有した。 ・家庭学習時間について、直近の2月調査では平日約1時間、試験前約3.3時間であった。また、学校アンケート[9.授業以外でも積極的に学習に取り組んでいる]での肯定的回答は61%となった。十分とはいえないが、進路目標を定めて受験を意識し始めた生徒も増えてきている。今後も担任から生徒に自覚が生まれるような働きかけを続ける一方、授業外での計画的な補習、個人指導、模試、居残り学習等の学力伸長を図る取組を積極的に進めたい。 ・進路指導では進路部主催の各種ガイダンスに加え、10月に進学講演会と就職ガイダンスを特設した。また、9月と12月の進路検討会の結果を各生徒に伝え、今後の方向性を一緒に考える時間を確保した。その結果、学校アンケート[6.学校での進路指導や情報提供は進路を考える上で役立っている]、[16.高校卒業後の進路について真剣に考えている]では肯定的回答がそれぞれ88%、100%となった。ただ、保護者アンケート[6.進路実現に向けてのサポートは充実している]での肯定的回答は73%と生徒との隔たりがあり、今後の進路先決定にあたり保護者との連携を強める必要がある。また、この学年は新学習指導要領に基づく最初の入試となるので、関連情報の収集・提供にも努めていきたい。	
	第3学年	学習時間調査を定期的実施するとともに、学年集会や個人面談をとおして生徒に自らの現状を分析させ、進路実現に向けて意欲的に取り組むようサポートする。	家庭学習時間目標 1,2組:90分 3組:150分	A	年度末学校アンケートで「進路指導や情報提供は進路を考える上で役立っている」の肯定的回答96%、「進路実現に向けてのサポート(進路学習・面談・補習など)は充実している」の肯定的回答が98%と、生徒の満足度は非常に高い。折に触れて学年集会や個人面談で学習意欲を喚起したり、取り組みを支援したりすることができたと考え。学習時間調査結果を見ると、年度当初は目標に達していなかった学習時間が1学期後半からは伸びている。しかし学校アンケート「授業以外でも積極的に学習に取り組んでいる」に肯定的な回答をした生徒は64%とやや少ない。今後の課題として、試験前、受験前だけでなく日常的な家庭学習への取り組みを継続させるための工夫が必要である。	

令和5年度学校評価 島根県立津和野高等学校						
重点目標 (生徒たちをどう育てるか)	目標達成のための具体的方策		評価のための指標	自己評価と次年度の課題(令和5年度)		学校関係者評価 (学校運営協議会委員意見) (令和5年度)
	担当部			評価	A:目標達成した B:ほぼ達成した C:達成までもう一歩であった D:達成に至らず検討を要する	
社会人としての常識・判断力(の育成)	生徒	○生徒会活動などを通して主体性や協働する力を身につけ、「生徒のための学校」を自らの手で創りあげることができる生徒を育成する	学園祭アンケート(「満足」「概ね満足」で評価全体の80%を目標)	A	○学校アンケートと学園祭アンケートの結果とも概ね良好であった。近年に比べて制限が緩和され、昨年度ともコロナ禍前とも違う新たな学園祭を生徒の手で創り上げることができたと考えが、これで満足せず更に良いものへと創意工夫していきたい。 ○校則をはじめとしたルールやマナー等は生徒の考えを踏まえながら、より時代に即した、より良いものへ改善していきたい。	○デジタル人材育成とともに、イノベーションにつながるデジタル思考を身につけることができる学校であることをアピールする。 ○探究学習も大切だが、生徒に刺さっていない。部活動、未来を生きる力が身につくことを、見せ方を工夫してアピールすべきである。
	進路	○面接講座等を通じて、進路実現の先にある、社会の一員としての資質を身につけることができるよう指導する。	面接講座後の振り返りアンケート等	B	業者による面接ガイダンスのほか、進路部独自の面接ガイダンスを3年生向けに行った。生徒アンケートの結果も概ね良好ではあったが、具体的方策に含めた、社会の一員としての資質の涵養という面では今一歩であった。単純な受験対策に終始しない指導の機会と捉えて、より実践的な講座の実施を検討する余地があると考える。	
	保健・人権・同和教育	○人権感覚とコミュニケーション能力を高めるために、人権HRを各学年年間3回行い、外部機関と連携を図りながら講演会や啓発活動などを年間2回行う。	振り返りアンケートの肯定的意見の割合	A	○学校アンケート結果より、「津和野高校での生活や活動は人権に配慮したものになっている」に対する回答のうち「思う」「まあ思う」と回答した生徒は88%、保護者は95%。また「他者の権利や自分とは異なる表現を大切にしている」に対する回答のうち「思う」「まあ思う」と回答した生徒は99%。「他者の人権に配慮することができる」に対する回答のうち「思う」「まあ思う」と回答した保護者は85%であった。 ○人権HRを各学年2回実施し、全校生徒を対象とした講演会を実施した。アンケートには肯定的な回答が97%、理解が深まったと回答した生徒も97%であった。また、啓発活動としては、4月に「いのち・愛・人権展」のパネル展示、夏休みに全校生徒による人権標語の作成、県の取組の紹介などを行った。この結果から、当初計画していた目標は概ね達成できたといえる。しかし、学校生活において生徒の人間関係のトラブルはあり保健室への相談回数も多い。引き続き、講演会や啓発活動、そして日々の授業においても生徒に人権感覚とコミュニケーション能力を身につけさせられるよう内容を充実させたい。	
国内外の状況を的確に把握する広い視野(の育成)	進路	進路ガイダンスや進路HR等の適切な計画によって、生徒が様々な世界の存在に気づき、その価値観に触れ、「ふるさとを守る者」、「ふるさとをはなれて想う者」、「外に出て力を蓄え、ふるさともどる者」がバランスよく育つ進路指導を学年会と連携して目指す。	年度末の進路状況調査結果または進路希望調査	A	希望者制進路ガイダンスには、年間を通じて延べ50名以上の生徒が参加。自らの進路実現のために一生懸命に活動する生徒への手助けをすることができた。今年度卒業生の進路状況に関しては、島根大学や島根県立大学をはじめとする県内学校への進学や、県内・町内での就職者もあり、かつ関東以西の各種学校への進学等も順調に決定した。県外就職に関しては、官公庁や大手製造業など、本校として信頼のおける事業所等への就職が多かった。	○寮生とSDGsの取組を行いたい。
自他の心と身体の健康を大切にする姿勢(の育成)	総務	○鍛錬行事における安全確保と完歩者割合を前年度比較で増加させる。	行事後の各集計実施後アンケート	A	昨年度の完歩率が96%、今年度が94%と数字上は低くなっているが、コース改定によるロングバージョンとなったことを考慮すると大変優秀な結果だといえる。また、コース改定により安全確保について向上した。事後アンケートの回答での「安全面への配慮について」の否定的意見が減少したことが根拠である。ただ、参加者の安全については道路上だけでなく、様々な場面で最重要課題であることは不変なので毎年一層の安全確保に努めていかなければならない。行事実施による生徒、保護者の達成感については全員が良好と回答している。	○学校に多様性が必要ではないか。
	保健・人権・同和教育	○生徒が自身の健康に関心を持ち、自立した社会生活が送れるよう支援するために、毎日の健康観察を行うよう促し、健康管理への啓発活動を学期に1回行う。 ○豊かな人間関係づくりの力を高めるために、講演会などを年に1回以上行う。	健康観察 実施後のアンケート等	A	○健康管理への啓発活動として、毎学期1回以上「保健だより」を発行した。また、文化祭において、保健委員会の生徒が熱中症対策について調べ、クイズを作成して展示し、熱中症対策を体験できるコーナーも設置した。多くの生徒や地域の方がクイズに参加してくださった。 ○山口大学から講師の先生をお招きして、「自分も相手も大切に人間関係づくり」という演題で1年生全員に対して講演会を実施した。 次年度の課題は、学校で行っている取り組み等についてHPなどを利用して、保護者に向けてさらに発信していく必要があるということ。また、今年度は1年生対象の講演会のみの実施であったが、さらに講演会を充実させることである。しかし、講師の方に来ていただくための経費をどこから支出できるかが課題である。	
	寮務部	○食べ残しを減らすなど食育教育の実践を行う。 ○衛生管理につとめ寮内集団感染を防ぐ。	食事調査、魅力化アンケート等	C	1週間分の食事調査をおこなっているが、部活動の大会日程や帰省予定を生徒自身が把握していない事がある。また、メニューによって食べ残しがある時と逆に足りない時があり、偏食の見られる生徒も多く炊事員さんも苦慮されている。フードロスを手近な問題として考えている寮生もいる。今後も食育教育を継続していく必要がある。手洗いやアルコール消毒の励行により大きな集団感染はなかった。引き続き実施する。	
各分掌等の具体的目標のうち、学校重点目標に該当しないと思われるもの	総務部	○学校行事(学園祭・鍛錬行事・入学式・卒業式)などを通して、同窓会・PTA・地域と連携した津和野高校をつくる。	学校評価アンケート結果	B	脱コロナ社会となって初めての年度となったが、多くのPTAの方々に鍛錬行事についてはご協力いただいた。PTAおよび卒業生・卒業生保護者のボランティア参加が47名という数値が証明している。同窓会や地域の方々からも来年度以降、協力したいとの声も上がっていることから、さらに連携を深める意欲はあると考える。学園祭は、さらに広く地域への広報が必要と考える。	○地元の子どもを大切にしていることを中学生と保護者にアピールする。 ○津和野高校がやろうとしていることを明確に伝える。 ○生徒募集は厳しい状況であるが、学校運営協議会としても地域の声を拾って考える必要がある。
	総務部	○津和野高校の教育活動に理解を得られるよう、毎週、ホームページのツコウニュースを更新し、積極的な情報発信を行う。	学校評価アンケート結果	A	ホームページの更新については、長期休業中も含め、毎週の更新ができなかったのは3週のみ。それ以外は、すべて1回以上の更新ができた。担当者の責任感と全教職員の情報提供など協力によるものと感謝する。情報発信としては、十分にできた。ただ、評価アンケートの評価点は、2.8から3.1と高いものではなく、生徒、保護者への周知や「ホームページの活用」といった点では不十分だったと考える。ただし、評価項目が「文書やホームページ」とあるので、一概にこの評価点でホームページ管理や運営の評価がされているとは考えにくい。CNと共同運営を始めた初年度だったInstagramの管理については、ほぼできていないが、現在の総務部員数や業務内容を考えると今後も難しい。	